

母乳育児に対する思いの変化

西病棟5階 ○道谷内美佳 宿野智恵 出口綾子
松田康子 岩本礼子 古田ひろみ

key word : 母乳育児、授乳、思い

はじめに

近年、UNICEF/WHOの勧告により母乳育児が推進され、母乳育児確立のためには早期接触や早期授乳、終日の母子同室が有効であると言われている。その提言を受けて本センターでは、経膈分娩直後の早期接触・早期授乳および母子同室の開始を実施して母乳育児支援に努めている。しかし、実際に支援していく中で、妊娠期より母乳育児を希望していた褥婦が、産褥早期に「疲れたから授乳を休みたい」と訴えることは多い。一方で、母子異室を希望していた褥婦が、授乳を続けていく中で母子同室を希望したというケースもあった。そのため、褥婦の母乳育児に対する思いの変化を捉えて関わるのが重要だと感じた。

先行研究では産褥早期から1ヶ月間は母乳育児に対して肯定的なイメージと否定的なイメージを併せもつ複雑な時期である¹⁾とされている。そこで、今回は母乳育児に対する母親の思いの変化に着目し、関連背景を探りながら助産師の支援のあり方を検討する基礎資料とする。

I. 目的

妊娠中から産後1ヵ月間までの母親の母乳育児に対する思いの変化とその背景を明らかにする。

II. 用語の定義

母乳育児；児に母乳を与えて育てること
授乳；児に母乳および人工乳を与える行為

III. 研究方法

1. 調査対象：A 病院の周産母子センターで分娩し、母子同室を経験した産後1～3ヶ月の初産婦
2. 研究期間：2008年4月～8月
3. 調査方法：産後1ヶ月間を振り返る形(入院期間に関しては褥婦が記載していた病棟独自の哺乳記録を参照する)でインタビューを行い、母乳育児に対する思いを聴取した。面接は半構造的インタビューとし、内容は許可を得て録音し、逐語録を作成した。
4. 分析方法：得られたデータは、内容を質的に分析し、類似性と差異を照合しながらカテゴリー化を行った。データ収集、分析においては、プレテストを行い、研究の全過程において質的研究経験者からスーパーバイズを受けた。
5. 倫理的配慮：A 大学医学倫理委員会から承認を得た(受付番号631)。特に、産後の疲労感やマタニティブルーを考慮し、対象者に負担をかけることがないようにできる限り配慮した。

IV. 結果

1. 対象者の背景

研究協力が得られた6名。年齢25～35歳。経膈分娩3名、予定帝王切開3名。妊娠週数は1例を除いて全て正期産、入院期間は5～10日であった。退院時は母乳5名・混合1名で1ヶ月時は母乳2名・混合4名であった。

2. 母乳育児に対する思いの変化と背景

出産後の母親6名の語りを時期別に分析すると妊娠期2つ、出産後から退院までの期間7つ、退院後から1ヶ月健診までの期間2つの合計11カテゴリーを抽出した。さらにそのカテゴリーから、各期で【母乳育児を望む思いと授乳への漠然としたイメージ】、【母乳育児の困難感と自信の芽生え】、【自分なりの母乳育児確立による満悦感】の3つのメインカテゴリーに整理した。

以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >、語りは「 」で示す。さらに思いの背景を“ ”で示す。背景因子は対象者の語りの中から抽出した。

1) 妊娠期

妊娠期には“友人”や“育児雑誌”、“母親学級”からの情報提供によって母乳育児について肯定的なイメージを抱いていた。母乳の栄養面、免疫面の利点や、産後の体型改善の目的から、「100%母乳で育てる」とく母乳育児へ強い希望を語っていた。他方では、「母乳が普通に出ると思ってた」「普通にやっていけるやろう」のように<授乳に対する漠然としたイメージ>が語られた。

このように妊娠期は【母乳育児を望む思いと授乳に対する漠然としたイメージ】と表現できた。

2) 出産から退院までの期間

(1) 初回授乳時

「全然吸わない」「なかなか(乳房が)口にはいらんくて大変やった」のように初回授乳時の“吸着困難”は、妊娠中のイメージとのギャップを感じさせていた。また、「とにかくあげなきゃっていう意識で。」と語られるように必死に授乳に取り組みながらも児に母乳を与えなくてはならないという使命感を抱いており、<うまく吸着させるために必死に取り組む授乳への意欲>として表現された。一方で、「すごいねー、こんなに上手に吸うんだ。普通にくわえて吸ってる」のように<予想以上に順調に開始できた安心感>が語られた。また、帝

王切開後では「痛いのに横向けって言われて、無理やりおっぱい吸わされて、こんな目に合わされてと思ったけど、我が子でかわいいから仕方ない」のように“術後の創痛”を上回る“児への慈愛”がく疼痛に勝る児への愛着から生まれる授乳への意欲>として語られた。

(2)初回授乳後～退院直前までの期間

「自分では飲ましたんに測ったら2ccとか6ccとか、これどうなるやろうと思った」という“母乳不足感”や「夜中が特にぐずぐずとなかなか寝なくて、あんどきはしんどかった」と“夜間の頻回授乳”による辛苦が語られた。また、「あんまり(体重が)増えなくて心配やった…すごく。」と“体重減少”に対する不安を感じていた。さらに「なんで吸ってくれないの、もうっという気持ちの方が大きくて」という“吸着困難な状況”に対する苛立ちが吐露され、「黄疸が心配で母乳あげたほうがいいのか」という“黄疸”に対する不安と、黄疸発症時の母乳継続への葛藤から順調に授乳が進まないことによる困難感>が語られた。一方で「だんだんだんだん本数も増えて、ぴゅーぴゅーとぶからね、すごいと思って感動してた」という“分泌量増加”による安心感や「大きくなったらもうちょっと吸えるようになるかな～と思いながら、もうちょっと頑張ろうって思った」と児が成長すれば吸着できるようになるという希望から授乳の上達と分泌量増加に伴う意欲の増進>として語られた。その背景には「ひどいときに助産師さん呼んで、何回も来てもらって話聞いてもらって、頑張ろうと思った。」と語られるように、“助産師の関わり”が背景としてあった。

(3)退院直前

退院を迎える頃には、「直接授乳で量飲めるようになってきたから、授乳に関してはそこまで心配せんくなってきた」と語られ、“母乳分泌量や直接授乳量の増加”に伴う喜びや安心感から、自分なりに授乳を継続していけるという自信につながっていることがわかる。また、退院後は「自分でやるしかない」という状況から、<退院を意識した授乳への自信と自立心の芽生え>を抱いていた。

以上のように、出産から退院までの期間は、吸着困難など妊娠中のイメージとのギャップに困惑しながらも、必死に授乳に取り組んでいた。そして、退院時には吸着の上達や分泌量の増加により自信が生まれ始めていたことから、この時期は【母乳育児の困難感と自信の芽生え】と表現できた。

3)退院から1ヶ月健診までの期間

「全然吸ってくれないのがもうずーっと続いているから、もう母乳やめようかって思ったときも何度もあ

る。」「退院して2週間目あたりから、張らなくなったことがあって、飲んどるんか…と思って、ミルク足した」と“吸着困難な状況”や“母乳不足感”から母乳栄養確立への困難感による人工栄養への気持ちの揺れ>として表現された。また、「辛いとかひどい時ミルク足してる。ずっと(直接)授乳のほうがもしかしたらすごい辛いかもしれない。」と人工乳を取り入れることで母乳栄養を継続できていると評価しているケースもあった。このほか、授乳中の児のしぐさに対して「この姿がかわいい」と幸福感を感じているケースが多く、“児への慈愛”が語られた。そして、人工乳を取り入れながらも「やっぱり母乳でいきたいし、できてよかったなって思う。」と語っていることから【自分なりの母乳育児確立による満足感】と表現できた。

以上のように、母乳育児に対する母親の思いは出産後“吸着困難”や“母乳分泌量”、“児への慈愛”をはじめとする様々な背景因子に左右され、揺れながら変化していた。

V. 考察

1. 母乳育児への思いの揺らぎと関連背景

わが国では、女性の90%以上が母乳で育てたいと考えている²⁾。本研究においても、妊娠期には【母乳育児を望む思いと授乳に対する漠然としたイメージ】と表現されたように、その思いに強弱はあるものの、母乳育児を希望していた。しかし、「とにかく産むことだけで(授乳に関しては)あんまり深く考えたことない」と語っているケースもあるように、出産が大きなイベントとして捉えられており、さらに初産婦であることから授乳に対するイメージは漠然としていたと考えられる。妊娠中のイメージとのギャップは、母乳不足感や吸着困難感として語られ母乳育児への困難感を増強させていた。妊娠期の母乳育児への情報提供の重要性は母乳育児成功のための10か条の第3条³⁾でも示されており、正しい知識の理解とイメージ化は、実際に授乳を開始した時のギャップを軽減し、スムーズに母乳育児を開始することができる⁴⁾と考える。

また、吸着困難、母乳不足感、黄疸、体重減少などはネガティブに、児への慈愛、分泌量の増加や哺乳の上達、助産師の関わりがポジティブに思いを変化させる背景として、複雑に作用しながら思いを変動させていた。特に母乳不足感や吸着困難は退院後も継続しており、不安や困難感を抱えながら母乳育児を継続していることがわかった。私たちは母親の心理面を十分考慮して支援していくことが重要である。橋本は母乳育児支援にはエモーショナルサポートが重要であることを強調している⁴⁾。これは単に“励ます”ことや“的確なアドバイス”をすることではない。本郷は、「母乳育児のエモーショナルサポートとは、まず、自分の感情をよく『聴いてもらえ

ること』。次に、普遍的で裏づけのしっかりした情報を提供してもらえること。そして、十分な情報の中で母親自身が選択できるとともに、その選択を受容してもらえることが重要だ⁵⁾と記している。実際に、今回のインタビューでも「(助産師は)呼んだらすぐ来てくれて、何回も同じこと聞いたし、それでもきちんと説明してくれた。」「話聞いてもらって、対処の仕方を教えてもらって、励みになった」と語られており、母親の思いを尊重することでエンパワーされていた。Mohrbacher Nらは、自分で解決した母親は、そのことが自信となり、やがて専門家から自立し、自分らしい子育てができるだろう⁶⁾と述べている。入院期間の短縮化に伴い、母乳育児に関する問題を解決できないまま退院する母親が多い現状にあり、入院中のエモーショナルサポートの充実が必要である。例えば、妊娠中に母乳育児を希望していた場合でも、出産後の経過や授乳体験に付随して母乳育児に対する思いが変化することを理解し、些細な言動も見落とさずにその思いを傾聴していくことが重要である。また、母児双方の状況に応じて母乳育児ができていないことを承認していくこと、母体の心身の負担を避けながら支援したいことを伝えるなどの関わりが効果的と考える。このような支援の方針を母親が受容し、助産師と母親の双方で合意できる支援が重要であると考え。そして、退院後も母乳育児に不安を抱えている母親に対しては、電話相談や母乳外来等、気軽に相談できる窓口を設けて、対応していく必要がある。

なお、本研究で得られたデータは、対象者6名と限られており、一般化するには不十分であった。また、分娩様式の違いによる特徴についても言及することはできなかった。今後さらに対象を増やし、検討して行く必要がある。

VI. 結論

産後1ヶ月間の母乳育児に関する思いは3つのカテゴリーに分類された。また、その思いは出産後の様々な背景因子によって左右され、揺れながら変化

していた。そのような母親の心理を理解し、エモーショナルサポートの充実を図ると共に、助産師と母親の双方で合意できる支援方法を模索していくことが重要である。

引用文献

- 1) 池内佳子：妊娠期から産後3ヶ月までの母親の「母乳イメージ」の変化，母性衛生，Vol.44 (4)，p455-465，2003
- 2) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課 (2002)．わが国の母子保健，平成12年度，東京，母子保健財団．
- 3) WHO/UNICEF：母乳育児成功のための10ヶ条，1989
- 4) 橋本武夫：Baby Friendly Hospital と Mothering the Mother, Neonatal Care, 7 (7), p. 9-12 (533-536), 1994
- 5) 本郷寛子：母乳育児支援カウンセリング，助産雑誌，Vol.54, no6, p15-20, 2000
- 6) Mohrbacher N., Stock J. (2003). The Breastfeeding answer book. (3rded.). Schaumburg, IL, La Leche League Internationl.

参考文献

- 1) 高橋江理子：『楽しい母乳育児』を目指して—母親の母乳育児に対する意識調査より—，第33回日本看護学会論文集（母性看護），p24-25，2002
- 2) 橋本幸恵：母乳育児に対する出産前後の思いの変化，第37回日本看護学会論文集（母性看護），p176-178，2006
- 3) 菅原光子：お母さんとともにすすめる母乳育児帝王切開分娩後の母乳育児支援，ペリネイタルケア，Vol23, no6, p10-13, 2004
- 4) 久米浩太：退院後の母乳育児支援，ペリネイタルケア，Vol27, no2, p33-37, 2007
- 5) 井村真澄：ハイリスク妊娠・出産を体験した母親への母乳育児支援，周産期医学，Vol32, no10, p1373-1377, 2002

表1 各期において母乳育児に対する母親の思いを左右すると考えられる背景因子

	妊娠期	出産後～退院までの期間			退院から1ヶ月健診までの期間	
		初回授乳時	初回授乳後～退院直前までの期間	退院直前	母親としての自覚	母乳の利点の理解
背景因子	親の勧め	術後の創痛	術後の創痛	児の泣き声	母親としての自覚	母親としての自覚
	育児雑誌	術後の動けない体	母親としての自覚	頻回授乳	児への慈愛	児への慈愛
	テレビや友人の授乳場面	母親としての突感	児への慈愛	夜間の送迎授乳	分泌増加	乳頭痛
	母親学級(免疫・経済面の利点)	母乳不足感	母乳不足感	人工乳の補足	黄疸	頻回授乳
	友人からの情報(体型改善)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)
	友人からの情報(体型改善)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)
	友人からの情報(体型改善)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)
	友人からの情報(体型改善)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)
	友人からの情報(体型改善)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)
	友人からの情報(体型改善)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)
友人からの情報(体型改善)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	友人からの情報(友人からの情報)	

